

佐賀大学校友会主催「第11回佐賀大学ホームカミングデー」が、令和4年11月5日(土)に佐賀大学本庄キャンパス(教養教育大講義室)で開催されました。

佐賀大学同窓会としても、佐賀大学同窓会報「楠の葉(第37号)」での呼びかけや同窓会役員等も参加するなど、校友会と連携を取りながらホームカミングデーを盛り上げました。

当日は、イベントとして大学会館の食堂でカレーライスの提供、美術館や産学交流プラザ施設見学の企画が催され、多くの同窓生が参加されていました。

セレモニーでは、佐賀大学児玉 浩明学長から歓迎の辞と近況報告として、「佐賀大学の現状と未来(これから)について」の話がありました。2030年に向けて「志、挑戦、そして未来へ」をテーマとして、発展していきたいと様々なデータを基に説明されました。来賓挨拶として佐賀大学同窓会水田和彦会長から、ホームカミングデーの形で大学を開放し説明いただき、感謝するとともに、6学部の総合大学として充実してきた母校の発展のために、同窓会としても支援していきたい等の話がありました。

次に、講演会として地域学歴史文化研究センター 准教授 三ツ松 誠先生による「大隈重信の学生時代～そのとき佐賀の教育事情～」があり、当時の時代背景や鍋島直正公の佐賀藩の教育がいかに優れていたかをわかりやすく話され、改めて教育の大切さを感じました。その後、校友会事業報告と共に、同窓生・在校生による報告会がなされ、学生支援事業(トビタテ!留学 JAPAN)によりフランス留学を経験し、その経験から現在はフランスと唐津市の連携事業の会社に転職して頑張っている様子が報告されました。また、佐賀大学発ベンチャー企業を立ち上げた大学院在学中の学生による事業内容の報告がありました。いずれも、大学側の支援により大きく羽ばたいている様子が感じられました。次に佐賀大学役員等との懇談会では、事前に提出されていた質問に答えると共に会場からの質問もあり、賑やかに会が進められました。

また、退官された先生方も多数参加されており、お元気そうな恩師の姿を拝見し学生当時を思い出す時間でもありました。

最後に、秋晴れの中、記念撮影をして終了となりました。